

教育力向上ワーキンググループ 会議録

1 日 時	平成26年7月15日（火）15:00～16:30
2 場 所	新居浜市役所3階 応接会議室
3 出 席 者	浦江賢治座長、一色明繁委員、今西光昭委員、森直子委員、渡邊誠一委員、橋川隆至委員、伊藤久門委員、吉田達哉委員、中山瑞枝委員、國司恵美子委員、木村和則委員（事務局長兼教育力向上戦略監）、眞鍋育朗委員（総括次長兼社会教育課長）、横井敏行委員（教育委員会事務局次長）、加藤京子委員（学校教育課長）、尾崎洋子委員（子育て支援課主幹）、篠原絵里委員（総合政策課主任）
4 傍 聴 者	1名
浦江座長	お暑い中、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。前回約1か月前になりますけど、いろいろなご意見をいただきながら第1回のワーキンググループの会をさせていただきました。今回はそれにプラスしまして各団体としてのお考え等を聞かせていただきながら進めてまいりたいと思います。今回も多数の御意見を出していただき、3回目、4回目に向け集約ができていきますように忌憚のないご意見をたくさんお出しただけたらと思いますのでよろしくをお願いします。最初に前回の話し合いのまとめにつきまして事務局の方からお願いします。
木村委員	《前回会議のまとめについて資料に基づき説明》
木村委員	《ESDについて資料等に基づき説明》
一色委員	《ESDの学校の取組について資料等に基づき説明》
木村委員	教育委員会としても市内小中学校全てについてESDを目指すということでいろいろな目標を立てていただき、中には環境問題、中には地域の歴史の継承であったり、それぞれ学校によって目的は異なりますけど、座長も申しましたが将来を支える子どもたちの意識改革、繋がる教育というものを目指すのがESDだと思ってやっていただいております。今の説明で何かご質問があればお願いします。
橋川委員	テーマは、どういう形で決められたのですか。先生と生徒で決められたのですか。

浦江座長	本校の場合、地域と連携した美化活動というのを3年ほど前から活動を始めていたので、それをはっきり言葉で表したものです。元々の環境美化の活動を地域とともにやっていこうのは教師サイドで話し合っただけという経緯です。子どもが話し合っただけというのが一番望ましいのですが、スタート時に当たりまして教師サイドでということなのです。
橋川委員	先ほどのテーマの答えのない問題を解決する自立する子どもたちということであれば、子どもたちに徐々にテーマ等を考えさせていくのがあるべき姿なのかなという気がします。
浦江座長	南中学校では活動の種類、活動の形態、内容について子どもたちが意見を出し合いながら練り上げてこういう活動にしていく、その活動をするために自分はこういう責任を持って取り組んでいく、ということが今できつつある状態です。
一色委員	何を指すかだと思います。自分は自分の方針としてふるさとに自信を持ってくれる子どもたちを育てたい。それが自分の経営方針の一つですので、多喜浜地区に継承されている文化、歴史を子どもたち自身の手でもう一回掘り起して発掘していくことで多喜浜ってすごいな、新居浜ってすごいな、日本ってすごいなって思える子どもたちを育てようと思っております。
浦江座長	どこの学校も教師の思いが先にあって、こういう子どもに育てたいということでのテーマじゃないかと思います。
浦江座長	それぞれ団体での御意見をお聞かせいただきたいのですが、その前に行政として学校教育、社会教育などの立場でどういう取組をしているのかの説明をお願いします。
眞鍋委員	社会教育課及び公民館の取組について簡単に御説明いたします。お手元の「社会教育課（公民館を含む）取組について」という資料をご覧ください。まず、公民館の事業といたしまして、学校支援地域本部事業が14公民館で実施されております。この事業は、学校・家庭・地域が果たすべき教育的な機能を十分に発揮することができるように三者が緊密に連携し、学校の教育活動を支援するため、地域の人々がボランティアとして学校の求めに応じた支援活動を担っていく事業でございます。市内での取組例としましては、見守り隊活動、学校の草刈り剪定等の環境整備、本の読み聞かせ、産業遺産めぐりなどの学校行事の

<p>加藤委員</p>	<p>支援、農業体験などがございます。次に、放課後子ども教室事業につきましては、8公民館と2か所で実施しておりますが、内容は、全ての子どもを対象といたしまして、地域の方の参画を得て、土曜日や日曜日、夏休みなどに開催しております。内容は、地域の民話の継承などの文化活動、軽スポーツなどのスポーツ活動、木工教室などの体験活動などが実施されております。次に、教育力向上プロジェクト事業につきましては、18公民館で実施されております。個人の学び、学習のための事業、地域での実践のための事業、今後の公民館・地域の方向性を決定するための事業の3つを柱として、各地域が実情に応じて実施しております。市内での取組例としましては、子どもたちを対象にした絵画教室、科学教室などの学習体験、保護者、地域などを対象とした家庭教育、高齢者講座、三世代交流事業などが実施されております。次に、放課後児童クラブの運営につきましては、16小学校校区と民間1施設において実施されております。この事業は、保護者が仕事などにより昼間家庭にいない小学校低学年の児童に適切な生活の場を提供することにより、児童の安全及び健全な育成を図る事業でございます。主には、小学校の教室で実施しております。以上で社会教育課関係の説明を終わります。</p> <p>学校教育課でございます。既にお配りいたしております平成26年度教育委員会取組方針に沿って、学校教育課の主な取組について説明させていただきます。2ページ目に項目を列挙しております。この項目番号に添って、3ページ目以降のシートを作成しております。例えば4ページ目は、2不登校対策と5いじめ問題対策の両方に関連があるので、2・5という表記にしております。1持続発展教育（ESD）を目指す学校づくりについてですが、これについては既に説明がありましたので省きます。持続発展教育（ESD）の各校の取組は、平成26年度教育委員会取組方針に掲載した一覧表のとおりでございます。持続発展教育（ESD）の拠点となるユネスコスクールの申請の進捗状況は、5月1日現在、26校全ての小中学校が英文による申請書を作成し、愛媛県教育委員会に申請済みで、うち小学校14校が、文部科学省の審査も終わり、パリのユネスコ本部まで審査が進んでいる状況でございます。2・5いじめや不登校を生まない楽しい学校づくりといたしましては、まず、いじめや不登校を生まない楽しい学校とは、根底に「授業がわかること」と「温かい人間関係の構築」が必要ということで、取り組んでおります。学力向上、Q-U心理検査につきましては、後ほどご説明いたします。教育委員会といたしましても、学校、家庭、地域の皆様のご協力を得ながら、様々な取組を行い、不登校児童生徒数も徐々にではございますが、減少傾向に向かっております。いじめ・不登校対策といたしましては、各中学校校区で義務教育9年間を見通した「小中連携」の</p>
-------------	---

取組を実施いたしております。また、それに加えて、保育園や幼稚園から学校に上がったときの子どもの不安感、新しい環境や集団生活への不適応いわゆる小1プロブレムの解消や、小学校から中学校に上がったときの子どもの不安感や、環境変化への適応が難しいいわゆる中1ギャップの解消などにも、努めております。いじめ問題対策といたしましては、昨年度全ての小・中学校において「学校のいじめ防止基本方針」を策定いたしました。今年度は、県のいじめ防止基本方針策定を受けて、市のいじめ防止基本方針を策定いたしました。また、毎月「絆アンケート」を行い、いじめや不登校等の未然防止に努めています。学級生活の満足度や意欲についての「楽しい学校生活を送るための心理検査」[Q-U]を全学年で実施し、いじめや不登校等の問題行動の未然防止と学級経営改善に役立てる予定です。また、ハートなんでも相談員は、小学校が10校、中学校は5校に配置していましたが、今年度は船木小学校に新設、角野小、中萩小に増設予定としています。スクールカウンセラーは、中学校5校、校区内の小学校7校に配置しています。次に、3学校教育環境等の整備につきましても、平成18年度～24年度、7か年計画で約56億円をかけて、小中学校教育施設の耐震補強工事が100%完了いたしました。今後は、建築後30年以上経過し老朽化が進む教育施設の計画的な大規模改修と、東日本大震災で問題になったつり天井、照明器具など体育館の非構造部材の点検、撤去などを実施してまいります。4確かな学力の向上といたしましては、確かな学力の定着と向上を図るため、昨年度に設置いたしました新居浜市学力向上推進委員会を中心に、3つの実践活動部会において、学力向上に係る検証改善を行い学習指導の改善に努めております。また、標準学力調査等の結果を分析、検証し、各学校が取り組んできた成果や課題を明確にして、次学期以降の課題解決に取り組んでおります。ICT（インフォメーション and コミュニケーション・テクノロジー）機器を活用した効果的な授業の実現としては、これまでに、平成22年度からこのような取組を行ってきましたが、平成24年度からモデル校を設定し、垣生小学校、泉川中学校、高津小学校に電子黒板機能付プロジェクター等の整備をしております。この中萩小・中学校というのは、中萩出身の方から寄附をいただいたものでございます。その他、学力向上に向けた取組としては、先ほど申し上げた標準学力調査や、8月に実施予定の「あかがね算数・数学コンテスト」があります。また、放課後児童の学習支援の場として、まず市内3公民館で、希望する子どもたちに、教員OBたちが、宿題や予習復習をさせる「学力向上学習支援事業」は、2学期からの開始に向けて準備を行っております。地元の新聞社と共催し、実際の新聞を創る過程を中学生が体験する新聞制作体験学習事業は東中学校で実施しております。5国際交流・国際理解教育への取組といたしましては、今年度は、フランクリン市から本市

	<p>へ来市する年に当たり、6月21日（土）～25日（水）の4泊5日の日程で来市、ホームステイを行いました。また、フランクリン市訪問は10月25日（土）～11月4日（火）までの予定となっております。ALTや日本人の英語指導員を小中学校に派遣し、子どもたちが生の英語に触れて、慣れて、楽しい授業を受けてもらう機会も設けております。6郷土愛を育む取組といたしましては、ふるさと学習として、本市の地域資源である別子銅山や多喜浜塩田、近代化産業遺産等を活用した体験型学習を実施しております。「ふるさと新居浜」を愛する心や誇りが持てる生徒の育成と先人の知恵や技術と感謝の念を込め、後世に継承・発展させる教育を推進することとして、ふるさと学習奨励賞や新居浜ものしり検定、ふるさと写生大会の実施などに取り組んでおります。以上でございます。</p>
木村委員	<p>一つ補足させていただきます。学力向上推進委員会についてですが、新居浜市教育委員会に教員で構成している教育研究所がございます。その中に学力向上推進委員会を作っていただいて、各部会で各先生方に研究していただいて成果を上げていただいている組織になっております。</p>
浦江座長	<p>学力と言いましても、その前に確かなという言葉をつけて表現したりするのですが、知識の面だけでなく判断力、コミュニケーション能力、自ら切り開いていこうという力、そういったものを含めて学力、生きる力という捉え方での広い範囲での学力の使い方を学校ではすることが多いです。狭い範囲でいうと知識理解、テストの点という形になりますけども、今学力向上ということという、広い意味で今から生きていく、新居浜を支えていく子どもたちを育てていくというのが学力向上の目指すところとお考えいただければと思います。教育力を向上することで子どもたちの学力の向上を目指していこうという取組であろうと思います。次に就学前の取組としてご説明いただけたらと思います。よろしく申し上げます。</p>
尾崎委員	<p>子育て支援課です。学力向上を今目指すと言われたのですが、生きていく力を育てるということで就学前におきましては、家庭の育児能力の低下や精神疾患を持った母親が増加していることが問題であると考えております。まず、お母さんたちの生活態度、家庭の生活環境を整えることで子どもたちが、基本的な生活習慣を身につけ、学校に登校できることが一番です。そこで、保護者に対して相談に乗ったり、助言や指導等きめ細やかな配慮をしております。また、上部・川西・川東の3地区に地域子育て支援拠点施設を開設し、子育て親子が孤立しないようにしております。今年度3か所子育て広場を増やしましたので、</p>

	<p>全部で7か所になりましたが、地域の身近にある地域子育て支援センター・子育て広場等が身近で相談に行ける場所ということで、お母さん方の育児相談を受けたり、子育て情報を提供したりしております。子育て支援課で作成している「にいほま子育てガイドブック・ぱれっと」でも、相談窓口や子育てに関する情報の提供をしています。また、保育園でも保育園に通園している保護者だけではなく地域の保護者の育児相談にも応じますよということで気軽に相談ができるような体制になっています。地域の主任児童委員さんから、地域にこういう子どもさんがいるんだけどとお声をかけていただいたりもしています。地域の力を借りて、登校しづらくなっている子や家庭への声かけ等をしていただきながら、まずは学校に行ける環境を整えていけたらと思います。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>それでは、先ほどお願いしておりました各団体での御意見、あるいは個人での御意見でも結構だと思います。それぞれこの1か月間で意見を集約されたり考えたりしてこられた御意見を順番にお願いします。</p>
<p>一色委員</p>	<p>失礼します。校長会の方でいろいろ意見を集約してまいりました。まず、今日一つ言います。現場が一番強く希望しているのは、結論から言うと学校支援員さんとか副担任制度とかそういう加配ですね。今からその背景について述べます。狭い範囲での学力について集約して述べます。かつて愛媛県が全国一、その中でも新居浜が全国一になった昭和40年代がありました。今秋田が非常にすごいのですが、秋田の学力向上策を見ても日々の一時間一時間の授業を大切に扱っていること、二つ目に学習活動のルールの徹底、話の聞き方、学習要領の準備等が徹底している。三つ目に子ども同士の練り合い、学び合い試行錯誤して更に高いレベルにしていくという学習展開、板書の工夫、精選された発問等々、授業改善の視点が分かりました。しかし、このことについては愛媛の教育、新居浜の教育と何ら変わってないと思います。新居浜の先生もそういうことを真剣に取り組んできています。こういうことが、今現場では一番大事じゃないかなと思います。で、一番違うのは何かというと秋田は徹底して少人数指導をやっていた。これが大きなことだと思います。今新居浜の教育現場では、特別支援を必要とする子どもたち、また生徒指導の配慮を要する子どもたちが通常の学級の中で一緒に生活しています。そこでは特別な配慮に時間を取られたり、時には授業を中断して個別の指導を行ったりと先生方は、本気で頑張ってくれています。やっぱり新居浜の先生の実力は県下でトップだと思います。これはほんとに自慢できることだと思います。普通は教師の仕事は、教科指導が5割、生徒指導が3割、事務処理が2割と言われてます。ところが新居浜はそうではない。教科指導が5割、生徒指導も5割、事務処理が3割、も</p>

	<p>うとっくに限界を超えています。限界を超えているけど誰一人ぶつぶつ委員会に対して文句を言うわけでもなく子どもたちのために崇高な使命のもと一生懸命頑張っています。そういう中で実力のある先生方が定年を前に退職されていく。自分たちが培ってきた教師の技というのを若手に継承する時間もない。今のような現状では教師の崩壊が新居浜では始まっているということです。そこにもっと危機感を持っていただいて、かつての全国一を取った誇りを取り戻すために市内の全ての小中学校に市独自で学校支援員さん、また副担任のようなものを専属でその学校に置けるような配慮を是非ともお願いしたいというのが校長の多くの意見です。</p>
今西委員	<p>公民館としても、先ほど眞鍋課長さんのお話の中で、学校支援地域本部事業や放課後子ども教室を各館でやっております。まあ、多少温度差はありますが、こういった活動を広げていこうというような取組をやっております。そういう活動はしておるんですけども、教育力向上については我々ピンとこないのが現状で、館長会でも話をしたんですけど、いったい何をやったらいいかと、ちょっと幅が広いんじゃないか、もうちょっと幅を狭めてほしいというようなことを話しました。我々公民館としてできることは今言ったような学校の子どもたちが安心して勉強ができる環境づくりをするには、どのようなことをすればよいかということ、今地域と家庭が連携して取り組んでいるんですけども、そういった活動から教育力向上に入っていくのは地域としては難しいという問題があります。我々は外堀を埋めていけばいいのかなということで、それではどういう取組をすればいいのかということ、地域、家庭、学校三者で協議して毎月話し合いはしておるんですけども、そういう話し合いの中で課題を見つけて進めていくような方向でいいんだろかと思っております。</p>
浦江座長	<p>教育力向上というのは子どもの生きる力を育てるために我々のできることを模索しながらやっけていこうということなので、また何か思い付かれましたらご意見いただけたら幸いです。</p>
森委員	<p>同じく公民館なんですけど、私たちは主事という実務を行っているので教育力向上のために例えば学校支援地域本部、放課後子ども教室、教育力向上プロジェクト推進事業でそれぞれ関わっているんですが、やはり予算という面で皆さん意見がありまして、学校支援地域本部と放課後子ども教室は県の補助金事業となっているのである程度支出の制約も受けています。また教育力向上プロジェクト推進事業の方は各公民館一律でいろんな講師謝金とか、あるいは材料費とかに充てているんですけど実際に活動している現場としたら、例えば子ども</p>

たちと一緒に料理をしましょうというときに食材費とかに使ってはいけない。講座に関係する人が自分たちで食べてしまうものは自分負担にしましょうという、それは確かに大切なお金を預かる身としては正しいところもあるんですけども、それを実は主事は無い知恵を絞ってお互い情報交換して、こういうふうに使ったらいいんじゃないんというふうに相談しながら、なるべく子どもたちには楽しんでもらえるように地域の人から、例えば社会福祉協議会から寄付いただいたりとかしてやりくりしています。そこで、もう少し自由になるような予算をもう少し付けていただいたら、それぞれの中身も充実するのではないかなという話をしました。例えば多喜浜公民館に自分が勤めているので、その話になりますが、3月に放課後子ども教室の子どもたちを香川県の防災センターにバスで連れて行ったんです。やはり県外に出るとというのは普通の体験とまた違うので大変喜んで、また非常に向こうでも煙体験、地震体験とあらゆることをさせていただいていい勉強になったと思うのですが、バス代がやはり一台借上げるとなると10万円以上かかってしまいます。バスの方も更に9月からバス料金がすごく上がるということで、なかなか小さな公民館一つでバスを借上げて子どもたちを、例えば今度は徳島に連れて行こうとなると考えなくてはいけなくなってしまうので、そのような面で各公民館に付けるのが駄目だったら各ブロックごとに、今年はこの地区の子どもたちを防災研修に連れて行こうとか、ある程度テーマを決めて、そういう予算を付けていただけないかなという話もしてきました。実際公民館のスローガンとして集い、学びそしてつなぐ、結ぶというのがあるんですけど、集いの面で子どもたちは今、私たちの事業に関しては比較的集まって来てくれるので、子どもたちの仕掛けの方法のスキルを、もうちょっと上げればいいと思うんですけど、その保護者さんたちがやっぱり前回も言ったんですけど、保護者さんたちが集うことがなかなか難しくなっているので、やはりその話では魅力ある、例えば講演会をしましょうと言ったら、なかなか講師というのを予算の関係で呼べないと、例えばこないだユネスコでした舞の海さんだったらすぐに千人集まるから、そういうのも全部が協力して、そしてできればと主事補さんたちも話し合いに参加してもらったんですけど、みんなそれぞれPTAや幼稚園で役員をして積極的なお母さんたちがいるので、そういう方をあまり負担にならないような時間帯に集めて実行委員にして公民館が後押しして本当に皆さんが聞きたいという希望では尾木ママとか、そういう有名な講師が出てたんですけど、PTAも確か計画されたと聞いたんですけど、有名講師というと何十万から何百万まであるので新居浜市としてそういう計画をしてもらったらいいんじゃないのかなというのを具体的に話してきました。また結ぶという面で私個人的に主任児童委員をしているので子育てサロンなんか今ほんとに始めたときは数人だったんですけど、

	<p>だんだん口コミで10人に増えたり、また年度で保育園に入るの減ったりはあるんですけど、その子育てサロンのお母さんたち大変まじめで、またこだけ各校区の子育てサロンはほとんどが社協支部の応援でしているんですけど、運営が、めちゃくちゃ厳しんです。全部社協支部に寄りかかって足りない分は自分たちで文化祭でバザーをした売り上げで運営したりして、おやつ代を出したりしてるんで、やっぱり参加費を取るとなると集まりが少ないので、ほとんど無料で子育てサロンをしているので、そちらの方もちょっと予算を考えていただきたいのと、後ある程度立派に子育てサロンの運営をしているので最初はお隣の校区同士で、またブロック同士そして全体とかいうふうに公民館と同じようにつなげていくような、そういうものを今からしていくべきではないかなと個人的には考えています。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>予算は学校も頭抱えているところなんです。もう一つ集う、つなぐということについては参考にさせていただきます。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>P T Aも予算については確実に足りないというのが現実です。予算が無いなりにやっていこうじゃないかということで、この四年五年やってきております。中で特にボランティアとか図書活動とか性教育とかもあるんですけども、いろいろやっていく中で一番大切なこと、隅々まで、各一人一人まで知ってもらう。そこにいきつくと思います。何事もこういう会をやって子どもたちの学力を付けよう、生きる力を与えようこの場で話しても伝わるのはどこまでなのか。悪い少年の親ってというのは何やってるの。邪魔ばかりしている。じゃあ子どもたちはいろんなところで遊びほうけているのに親ってどうしているの。親も一緒に遊んでる、もしくは家でテレビ見てる。そういう親が、保護者の方が少なからずいるというのが現実で、P T Aの活動をしてきて知ってもらう、隅々まで知ってもらう、体験してもらうというのが、この数年間、永遠のテーマに、今までやってきた中のテーマだったんじゃないのかな。そういうことを考えております。結局中村知事さん呼んで無料で来ていただいて話していただいても50人。その人たちが伝えることってというのがしれている。私たちが求めている保護者にはこういう思いというのは伝わらない。伝わっていかない。学校教育の現場でもきっとプリントや面談してもいいかげんで、ああ、面倒くさかったわで帰られて、何をやってるのか。何を言ったかも覚えてもらえず帰る。行っただけ行くよ、面倒くさい。そういう人たちを真剣にさすためには、どういう情報を与えたらいいのかというのはP T Aにとっても永遠のテーマになってきています。ボランティア活動を中学生が、そのまま被災地を見て感じたことというのは我々が予想するよりはるかに大きい情報量だったかもしれません</p>

<p>浦江座長</p>	<p>し、もしそういう保護者の方にそういう情報を与えられたら、もしかしたらもっともっと教育熱心になってくれるんじゃないか。それこそ地域力と教育力の両方がいっきに上がっていくんじゃないかなと考えながらそういう活動をしています。</p> <p>前回伊藤委員さんがおっしゃってましたけど、周知、学校でもどこまで伝えることができるかが本当に難しい問題ですよ。情報の伝達、内容、方法について私も常々頭が痛くなります。ありがとうございました。</p>
<p>橋川委員</p>	<p>今、渡辺会長が言われたことに加えて言いますと保護者の代表としては、やはり先生方との情報交換を密にしなければならないと常日頃から思うんです。けども、その中で学校に生徒をお任せして先生方にある程度教育をしていただくなか、先生方の情報も保護者にあげていただく、我々保護者の情報も先生方にあげるといふところの双方の意見のやり取りが無いと、なかなかうまく子どもの学力向上を含め進んでいかないかなと思います。たまにいろんな中学校なり小学校なりに話を聞かさせていただき、どうしてもそこところで、くいちがいが出ているというのを散見されたりしますので、そういうところを上手く我々の方もしていけないといけないし、協力していかないとなかなか生徒を一方向に向かって全員でというのは取り組めてないところもあったのかなというのがあります。ただその辺もいろいろ教育委員会の方にもご協力いただいて何回か重ねていく間に先生方との情報交換出来上がったり、泉川校区のように定例会をやっていただいているいい例がありますので、それをもとにいろんな形で広げさせていただいて、そういう中で先生方とのいい関係をこれから築いていって学力向上に結び付けたらなあと思最近常々思います。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>大人のベクトルがほんとと同じ方向を向いてなかったら子どもは育ちませんよね。ありがとうございました。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>教育力の向上という概念の中には、多くの切り口があろうかと思うんですけど、その中で今回、最終的な目標、目的として未来の新居浜を担う子どもたちの育成というような大命題がございます。最終的には本当に先に一色委員がおっしゃっていた特異な歴史であったり、特異な文化というのがここにはあろうかと思うんです。そこで育んだ独創的な人たちが新居浜という母体を旅立ってですね、どこかに出たときに最終的に未来の新居浜を担うような例えばポジティブなスパイラルに今なっているのかどうかというようなことです。育ってそのまま帰ってきているような、そういうこともひょっとしたら無いのかなとも思うんです。だから一生懸命育てたものの最終的には未来の新居浜を担うこ</p>

	<p>とはできないというような結果に陥っているということが無いようにしないといけないと思うんです。これはともすれば教育力というような切り口だけでなく社会の情勢であるとか、あるいは経済的な問題であるとか多岐にわたった問題で切り口としたら非常に複雑に入り組んでいる問題なのかなというふうにも思うんですけど。その辺りを総括的に考えていく必要があるかとは思っています。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>育てた子どもたちが新居浜で頑張ってもらいたいと思います。ありがとうございます。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>やはり今話を聞いていて、たくさん子どもさんに光が当たるような活動をする必要があるんだろうな。そう思ったところで、スポーツ系の子どもたちは、いろんな大会とかもあって光もあたるんでしょうけど、文化活動やそれ以外の子どもたちにはあんまり光が当たる分野がありませんので、我々ユネスコとしてはその辺に力を入れるのが必要なのかなというような思いがあります。それが一つはユネスコスクールになってるんだろうなと思います。先陣を切った南校のユネスコスクールさんは、愛媛新聞大賞という素晴らしい賞を取られましたし、一昨年はユネスコ本部まで招待を受けて行ったりとかですね、それがひいて大学の進学も愛媛大学とかに進学したりとかして、非常に子どもたちが自信を持って成長していく姿を見てユネスコスクールはなかなかいいもんだなと自分なりに思っております。新居浜ユネスコ協会としては、そういう子どもたちに光が当たる場面を少しでも多く作ろうということで、8月2日には、平和の鐘を鳴らそうという事業をイオンのセンターモールで1時間ほどやるんですけども、これは戦争のない平和な世界を作ろうというのが目的なんですけど、特に新居浜市内の例えば西中の合唱部の演奏をいただいたり、高津に高津っ子バトンクラブというのがあって、そこのバトントアラーの子どもたちが演技をしてもらったり、そういうような機会を設けてできるだけ多くの子どもたちに、そういった人目に当たるといって、光が当たるようなことができる事業をこれからも進めていきたいなというふうに思っております。ユネスコスクールの中で今教育長さんから宿題をいただいているのが、企業がどうユネスコスクールに関わっていくかっていう問題がありましてですね、今後はユネスコ協会として今頭を抱えているんですけども何とかいい知恵はないものか考えているので何かいいお知恵がありましたら言っていただければと思います。よろしく申し上げます。</p>
<p>木村委員</p>	<p>ちょっと補足しますと、市内の小中学校全部ユネスコスクールということで申</p>

	<p>請させていただきます、学校、地域、家庭という連携の中に地域という部分で企業さんというのはどういう立場にあるのかなというのをちょっと考えたときに、ユネスコの方にちょっとお願いしたんですけど、学校の活動に対して地域の企業がどういう手助け、何かしていただけないだろうかと学校の教育に対していろんな見識を持たれているユネスコさんということで特にお話をさせていただいた経緯がございます。</p>
中山委員	<p>保護者の立場からなんですけど、市内の小中学校の耐震化工事についてはほとんど終わったと思うんですけど保育園を工事しているの見たことが無いんですが、それはなんでなのかなと疑問に思ったんですけど。</p>
加藤委員	<p>耐震というのは先に耐力度調査をいたしまして、危ないというところだけに耐震化工事を施工しますので、今の段階で施工されていない施設は耐震補強の必要がない、地震があっても大丈夫な施設、小中学校の施設でも耐力度調査して大丈夫なところは施工していません。今新居浜市は100%できておりますのでご安心いただけたらと思います。</p>
中山委員	<p>前回お手洗いの話が出たと思うんですけど、できたら幼稚園、保育園、小学校で統一していただけたらと思います。また、文化センターのお手洗いなんですけど綺麗にはなっているのですが、子供用のサイズが無くて子どもが手を洗おうとしてもセンサーが届かなくて、お水が出てこなくて長蛇の列ができていような状態がよく見られるそうなので、市内の幼稚園、保育園がいっぱい利用されていると思うのでできたら子供用があればと思います。</p>
木村委員	<p>大ホールのトイレについては一昨年だったと思うんですけど、それまでは和式ばかりで洋式は一つしかなかったんですけど、洋式化ということで大ホールに1か所だけ和式を残して、後は全て洋式化というふうにトイレの改修を行いました。改修した際には子どもまでの意識がなかったというのがあります。また担当課の方には言いますが、施設も古いんですけどちょっとずつ皆さんが使いやすい形で改修はしているんですけど、どうしても大人中心になっているのは申し訳ないです。また改修できるものについては検討させていただきます。</p>
國司委員	<p>お世話になります。良い話を聞かせていただいてありがとうございます。質問なのですがスクールソーシャルワーカーさんて市内に何人ぐらいいらっしゃるのですか。</p>

加藤委員	スクールソーシャルワーカーはあすなる教室に1名います。
國司委員	<p>先日高校のPTAの役員の関係で人権の四国大会に行かせていただいたときに、不登校のお子さんをスクールソーシャルワーカーさんの発案で学校だけでなく地域にある集会所とか誰が集まって来てもいい、健常者であっても障がい者でも高齢者でも子どもたちでも誰でも行けるような場所があって、そこで学校の先生がそのお子さんのために学校から出向いて行って学習を続けられて、そのお子さんはその後学校に戻ることができたというお話を聞かせていただいたときに新居浜には何人いらっしゃるのかなと思ったので質問させていただきました。教育力とか、やっぱり学校だけでは多分それはかなわないし地域だけでもかなわないし、やはり地域と学校と、で橋川委員が言っていたようにやはり確かに個人情報だとかいろんな事情もあるかとは思いますが、すけども最終的に子どもの幸せをとか、全て子どもたちのためにといつも市P連で言っていますけども子どものために何かしたいと思ったときに、どうしても学校によってはとか、その団体によっては、なかなか情報共有ができてないところがあったりして、保護者は保護者で地域は地域でこういうふうになっているのと思うところもったり、逆に学校の方も多分、こういうふうにしてほしいのと思うところがあるかもしれませんが、最終的に子どもたちのためにと思うところで協力ができたら、いい関係につながるのではないかと考えております。いろいろ話を聞いていると子どもさんのお菓子代とか主事さんたちも一生懸命やられていると思いますし、そういうことを知り合いからですが話していきたいと思います。</p>
浦江座長	<p>いろんな場面でつながっていくときに個人情報保護というのはなかなかネックになりますよね。</p>
國司委員	<p>このあいだもその話が出てました。そのときに出たことがですね地域の方、フロアーの方から出てたんですけど、民生委員さんが地域に支援の必要な方のいろんな情報を民生委員さんが変わったときにうまく引継ができない。ほんとに民生委員さんで人が変わったら、また始めから発掘しなければならないとかいう、もちろん地域によって違うと思うんで新居浜市はうまくいっているかもしれないですけども、そういったところでものすごく不具合を感じているというふうに、そこは守秘義務もあってきちんと守っているにもかかわらず変なところで壁を作っているとか個人情報保護法の不具合、大変さとかいうのをいろんな方がいろんな立場でお話しされていたので、大事にしなければならないけども、それが変なところで進んじゃうとうまくいくものも邪魔をしているのか</p>

<p>浦江座長</p>	<p>なと思いました。</p> <p>今いろいろご意見いただいたんですが先ほど伊藤委員さんのおっしゃった内容について、市の政策懇談会で最初に簡単に説明いただいたんですが他のワーキングでも協議されている内容ですよね。</p>
<p>木村委員</p>	<p>今年新たにこの教育力向上ワーキンググループと、もう一つが健康都市づくりということで健康のワーキンググループが新たに設置されております。また、昨年から引き続き地域コミュニティの再生と経済の再生のワーキンググループが昨年から引き続きということになっております。経済の再生の方の結果もあるんですが、伊藤委員が言われました子どもたちが新居浜を将来支えているのかという問題っていうのは、教育委員会としても中学生が高校になるときに何十人か外に出る、市外の高校を受ける。大学に行って、大学に行った地元の子が何人新居浜に帰ってきているのかというのはすごく問題だと思っています。それともう一つは最近低年齢化している小学校から中学校へ上がるときに市外の中学校に行ったり、市外に出るという問題も抱えています。大学で市外に出て行った子どもたちが新居浜に帰ってきてもらえるように、どんな政策があるのかというのはここだけでなかなか出にくいんですけど、他のワーキンググループでも出てたように記憶しています。ここはここで教育力の中でこういうことをしたらいいじゃないのかを御意見いただいたらと思います。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>実は教育力の向上のフローチャートの右端に未来の新居浜を担う子どもたちの育成という目的が到達点かなと、この目的のために教育力向上というものをそのプロセスとして成し遂げなければいけないと思ったものですからそれで先ほどの話をさせていただきました。</p>
<p>木村委員</p>	<p>まあ、せっかく育てた子どもたちなんで、それは帰ってきてもらうのが一番ですし、また出て行かない子は、ここで支えてくれる子どもたちに育てないといけないとは思ってるんですが、まあ両方なんです。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>このふるさととか、明るい未来とか、力強い日本というふうな形になっていくかとは思いますが。これが最終的な伊藤委員さんが言うような未来の新居浜を担う子どもたちの育成が何につながるか、新居浜の人がどこへ行こうと何をしようとして結局新居浜のことを語っていただいたり、いろんなことをしていただいて新居浜ってすごいんだ、じゃ観光にも使えるんだ、未来の新居浜を担うっていう意味は、帰ってきてもらうという意味ではなく、いろんな所に散らばって</p>

<p>渡邊委員</p>	<p>新居浜をPRしてくれたり、いろんなことをしてくれたりと世界中に新居浜の子どもがいてもものすごい大学に行って、いったらノーベル賞でも取ってみたいなそんな感じで、新居浜ってすごいんだなになるので、世界中のどこにいても、という意味だと思うんです。新居浜という形を考えた中でどうやって新居浜出身ですよ、新居浜の子はすごいですよと、どこまで発信するかじゃないのかなとこのフローチャートは、続きがありますという感じでいいです。</p> <p>教育力について世界中の取組とかを見て、インターネットとかで調べてたんですけども、韓国はものすごく教育熱心で、教育がどうのこうのでサムソン電機とか韓国企業に世界中で日本のパナソニックがNECがシャープが抜かれましたよとかいうことがありました。そういう韓国も今、就職率、賃金などで問題がある状況です。勉強だけ一生懸命してきた韓国と、こういうことを考えている日本っていうのは今大きく差が出てきているのかなと思います。韓国というのは勉強ばっかして、いい所行きなさい行きなさいをやってきた証拠じゃないかなとは思っています。日本中でこういう広がりやユネスコさんとかを利用して国ごと上げていって、その中で新居浜をどんどん支えていったりすることが必要で、我々が家庭で国を愛して、地域を愛してというそういう目的が無ければいけないと思うんです。日本に住んで良かったね、新居浜に住んで良かったねと心の底から思えるような教育をしていただけたらありがたいのかなと個人的な意見としてあります。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>学力という捉え方もほんと知識理解だけの学力じゃなくて生きていくために何を身につけていくか、将来新居浜をあるいは日本を背負って立つ子どもたちになってもらうために今何をすべきか、今何ができるかというよりも今何をすべきかということいろいろお話しただいて、それができるかどうかというのはまた事務局の方で調整いただくということでお話どんどん出していただけたらと思います。私先週西条の学校の研修会に行きまして、そこで講師の先生が経団連が行った企業の採用時の重点事項、重点項目という話がありました。学力とかいろいろ出る中で第一を占め続けているのがコミュニティ能力、人と交わる力が第1位でここ何年も続いてそうです。そういったものを今の発言の中でも強く出していただきながら集う、つながる、結んでいく、そういう御意見の中での話し合いが今進められていっていますので実際私たちが目指す方向性と日本全体が目指す方向とは同じかなと感じております。また、私中学校の校長会で話し合ってきたことを言わせていただけたらと思うんですけど、中学校の校長会では実は二つ出てきたんで一つは次に回すとして一つ目がですね、今ほんとありがたいことに真の学力というお話をさせていただいたのです。</p>

	<p>が、やはり狭い、狭義での学力というのも大事であろう、やっぱり点数になるんですけども、それを追求していく、追求しすぎたらさっきの渡邊委員さんのお話じゃないですけども、それだけでは、これは非常に問題なんですけども中学校としてはやはり知識理解、判断力そういうのを付けるための学習も力を入れていくべきだということ为先月の校長会で話し合いをしました。そのときに出ましたのが、今ほんとに求められているのは一人一人の子どもが、どこまで理解できる、どこまで考えることができる、それをどこまで表現できるかということなんです、そういった内容の学習を進めていく面で、子ども自身の自分の位置それと教師自身がどこまで子どもたちを育てることができたか。という自分の頑張りの振り返り、そういったものも必要ではなかろうかなという話をしました。そういった狭義の意味での学力についてもやっぱり今から検討していく中には入れていただきたいというのが中学校の校長会の二つ大きな中の一つでした。今ほんと子どもたち将来を背負っていく、50年後を背負っている大人を育てるために今何をすればということ意見出していただいますが、他にご意見いただけたらと思うんですが。</p>
<p>一色委員</p>	<p>未来の新居浜を担うというのはいろんなところに行って活躍できる子どもたちを育てていくことだと思います。その中でやはりキーワードになるのがコミュニケーション能力、さらに言ったら英語力だと思います。早かったら2017年に英語が小学校でも教科化され道徳も教科化され中学校では教育課程が変わっていくんだろうと思います。今ALTさんが市内に3名で指導員さんが3名おりますけど、それをもっと増やしていただいて小学校のときから、もっと生の英語に、ネイティブな英語にふれることが必要になってくるんじゃないかなと思います。英語を聞いても会話が分からない、どの部分の単語をつなぎ合わせてこういうことを言われてんだろう、で中一ぐらいの能力で返していく。ただ最近は翻訳機を持って行って、そこで打ち込んでこれっていう状況なんで子どもたちにそういう抵抗がないようにするためにもALTさん指導員さんを小学校にもどんどん配置していただけたらありがたいかなと思います。</p>
<p>橋川委員</p>	<p>確かに英語が重要なのはわかるんですが、その前にもっと日本語を大切にしないきゃいけないのかなというのは特に思います。この前、教育長といろいろお話しさせていただいたときに読解力が無くなっている。要するに英語を組み立てるにもですね、日本語を組み立てない限り今の英語は成り立たないんじゃないか。もっとそのへん日本語を大切に特に小学校の1、2年生にやっていただかないと、英語自体が結局その上に成り立つもんですから、それが結局基礎が無いままにその英語をやるということをや、なかなか身につかないという</p>

	<p>ころがでてくるんじゃないのかという気がして仕方がないです。英語英語ともう何年前から言われながら全然身につけていないのが今の現状だと思います。それはやっぱりその日本語を捨ててるっていうん訳じゃないんですけど、日本語をあんまり顧みないままに英語に出るところがやはり一つ身につかないところになるのかな言うふうに思います。ただ環境は必要です。絶対環境は必要です。その英語を教えるという環境は必要だと思います。ただそこにやはり日本語の基礎があつての話だと思います。この前渡邊会長からも出てたと思うんですが図書を活用したうえでやはりそういう日本語を大切にしてくださいの上での英語の積み重ねというところを考えていただきたいと思います。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>英語の力ほんと今世界共通語のような形になっておりますんで非常に大事ですけど、ほんと小学校でも英語の教科化というのをにらみながら課題は山積んでいます。英語力を育てるためにもまず日本語、国語、自分たちの国の言葉についての理解が必要ということですね。</p>
<p>一色委員</p>	<p>先ほどの読解力については考えがありますんで次回述べたいと思います。</p>
<p>橋川委員</p>	<p>先ほど新居浜の特徴として太鼓の話がありましたが、もう一つ新居浜としてやっぱり住友に勤めている人間としては発祥地としての住友だと思います。先ほど企業の力をどう使えばいいかという宿題をいただいている話がありましたが、大きなところでいくと化学であり重機であり鉱山であると思います。そこにはですねいろんな方が勤めていて、それなりの結構な頭を持っている方が勤めておられる、ドクターを勤めておられる方も新居浜には多数おられます。そういう方がすぐ近くにおられます。その方はもうすぐ、そのまま来てすぐ授業ができるような知識を持っておられる方がかなりいると思います。それも実践での授業ですからすごく楽しいと思います。特に重機さんなんかでいくと宇宙のロケットを開発しておられる方がおられたりとか、断層写真の医療機器を開発している方がおられたり、化学さんだったらいろんな機能性樹脂を開発されている方がおられたり、鉱山ですと金銀を精製したりとか電池をやっているとかなんな形があります。その辺の力をもっと使っていただいたら子どもたちの興味を持たせてそこから勉強する。なおかつそこに新しい知識を加えていくともっともっと交流があつて然るべきかな、それが結局人材確保につながるというのが絶対あると思います。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>ありがたいご意見です。時間がまいっておりますがいかがでしょうか。</p>

渡邊委員	新居浜に大学を作りましょう。
浦江座長	いいですね。ほんとにいいですね。ほんと大事なことですよね。桃山短大さんがあったときのほんとありがたいなという気持ち今もあります。ご意見は次回に頂戴するという事でよろしいでしょうかね。今日の御意見を事務局の方である程度整理していただいたものを発表していただいて、またご意見を出していただく中で少しずつ方向性を出していけたと思いますのでよろしくお願ひします。